

話し合い活動1

～短冊・磁石の扱い、意見の出し方について～

時計を掲示して見通しを持つ

- 時間配分…「話し合い1（やること）」よりも「話し合い2（工夫）」の時間を多く確保する。
※「話し合い3（役割分担）」も授業内で終わることが望ましい。

短冊

- 文字は大きく、短く、体言止め（教師が書く〇）
- 学級会前に短冊を児童に伝えておく。
- 短冊は、思考整理するために効果的に動かす。

話し合いの進度

- 「今ココ」マークで、 現段階の話し合いの進度を示す。

磁石の使い方

- 赤色（賛成）
- 青色（心配）
- 心配意見が出たら、改善案を言う。 心配が解消したら、黄色に変える。

短冊の扱い方

- 短冊は横並びから決まったものを上げたり、合体意見の時につなげたり、思考を整理できるように動かす。
- 拾えなかった内容はレクなどで扱うなど、必ず教師が促す。
※「今度やろう」ではなく、具体的に実施する日程を伝えるとよい。

短冊の留意事項

- すること、作るものはどういうものかのイメージ共有したり、大きさや数、期日内に準備が出来るかを意識させたりする。

意見の出し方

- 意見は必ず理由をつけて言う。
- クラスの普段の指導の延長で行う。
※起立の有無など、指導意図をもって
- 発表後の拍手は、音の差による評価が明確にたってしまうため、望ましくない。その代替として、意見を言った時は、拍手をせず、司会から「ありがとうございました」と伝えるように促す。

